

COMFORTABLE



1964 Chevrolet Bel Air Station Wagon

text & photographs by MASAHITO HAYASHI special thanks to GRACE CAB www.gracecab.jp 0568-35-7790 owner: OKAZO KEWL RIDE C.C. < AICHI >

ラージリムのスタイルから一転、13インチのクラシックへ

国産SUV、アメ車SUVと乗り継いできたオーナーが次にチョイスしたのがこの1964年のベルエアワゴン。しかもこれまではラージリムのスタイルを好んでいたが、一気にスタイルチェンジを果たした。次の一台を何となく探していたところで、こんなクルマあるけどどう？と勧められたのがこのクルマだったという。まさか自分がこの年代のクルマに乗るとはあまり想像していなかったものの、実際に通勤のアシとして全く問題なく乗れているとのこと。

エンジンは比較的高年式（とはいっても恐らく1990年代）のSBC350に乗せ替えられており、トランスミッションは3速のTH350。吸気、点火、ブレーキなどのアップデートはもちろんのこと、サスペンションもライドテック製で固められており、ストックの機能を優に超えるレベルの完成度を誇る仕様になっている。

もちろんエアコンも装備。当時の雰囲気のままのルックスながらも性能面ではかなり改善されており、普段のアシとしてクラシックシェビーを乗りこなすという贅沢を実現させている。当時の上級グレードのインバラと比較すると、若干簡素な雰囲気もまた、味わいを感じられる部分。ゲージはダコタデジタル製のRTXシステムを搭載。これまでのVFDやVHXなどとは異なり、ストックのデザインを踏襲したアナログ計器に見立てた最新システムもまた、雰囲気を盛り上げてくれるアイテムだ。

クラシックも含めたありとあらゆる年式、カスタムのスタイルなどを柔軟に取り入れるのも、グレースキャブラしさでもあり、オーナーもまたこれまでのクルマの楽しみとは違った魅力を堪能しているに違いない。



エンジンは高年式のSBC350センターボルトに乗せ替えられており、キャブレターはエーデルブロックのAVS2。トランスミッションは3速のTH350。各部のドレスアップ他、点火系はMSD、デュアルマスターシリンダーブレーキ、エアコンシステム、ライドテックサスペンションコントロールアームを装備するなど、大部分のアップデートが行われている。

1964 Chevrolet Bel Air Station Wagon



ゲージはレストモッド系スタイルで絶大な支持を得ているダコタデジタル製のRTXシステムを搭載。ストックのアナログゲージのデザインを踏襲しながらも、中身は最新のデジタル仕様となっており、LEDバックライトや液晶モニターもクラシカルな雰囲気と調和が図られたもの。



インバラと比較するとシンプルなデザインのインテリアは、その雰囲気のまま。エアコンのシステムはヴァンテージエア製を中心に構成し、吹き出し口ユニットは昔の社外ユニバーサルユニットをチョイス。



通勤仕様ということで、サスペンションはストックからライドテック製のショックウェーブシステムに変更したことで、より安定したハンドリングと、現代的な乗り心地も実現。まさに快適な通勤仕様。

エアサスペンションのアシで、ホイールはクレーガーのリバース13インチをセットしたことで、かなり低い車高を実現。



COMFORTABLE